



「白南風しらはえとともに」

静岡教会教会委員長 菊地 潔

主の平和

「2022年もう早いもので残すところあと半年となりました」こんなあいさつが交わされるくらい時の移り変わりのスピード感は早く、年々追いついていけなくなっています。

流行語はその時の世界情勢を表していますが、上半期では「完全試合」（プロ野球ですね）「トリプルコーク 1440」（冬季オリンピック思い出してください！）「カムカムエブリバディ」（観たことありませんが・・・）そして、「侵攻」もノミネートされていました。ロシアによるウクライナへの「侵攻」は、日本の高校生には世界史の授業で習っただけの戦争を毎日リアルタイムで報道される戦地の様子はとてもショッキングで涙する姿もテレビに映し出されていました。「侵攻」がこれ以上「進行」しないよう私たちの「信仰」をもって防ぎ、1日でも早い平和が訪れることを願うばかりです。また、人道支援としてカリタスジャパン緊急募金にもご協力いただきありがとうございます。メジャーリーグの大谷選手ではありませんが、私たち信徒は、「祈り」と「募金」の二刀流で引き続き支援をしたいものです。

さて、話題は変わりますがタイトルの「白南風（しらはえ）」とは、梅雨明けに吹く南風のことで、巻頭言に掲載される頃は梅雨明け間近って感じでしょうか。

静岡教会にも、白南風が吹く！そんな話題をお知らせいたします。静岡教会に吹く白南風は、ベトナム語によるミサが7月から行われます。

静岡県では2020年のデータで約13,000人のベトナム人が学び、働いています。カトリック信徒も多く、静岡地区では草薙教会で第2日曜日の午後にベトナム語でミサを行っていました。平均100人、多い時で県内在留ベトナム人の1%にあたる130人から150人の信徒が草薙教会でのミサに与ります。このコロナ禍では密・密・密になりすぎる状況となり、このままではキャパシティ等いろいろな課題も生じてしまうということで草薙教会から静岡教会でミサが行えるか否か打診がありました。静岡教会の教会委員会でこの案件を諮り、承認を得て、その後ベトナム人信徒のリーダーの方々との打ち合わせを行った結果、7月の第2日曜日の午後3時から静岡教会でベトナム語のミサが始まります。

信徒の皆さまの中には、「なんで？WHY？」と驚かれる方もいるかもしれません。変化することに対して不安になり、戸惑う方や嫌がる方もいらっしゃるでしょう。しかし、私たちはこの2年間、「簡素化されたミサ」、「様々な教会活動の制約」からコロナ禍での信仰の在り方についてと大きな変化を既に体験しています。様々な変化に対する対応力は十分あるじゃないですか！これから起こる少しの変化にハラハラしている方、それはハラハラでなく、少し気持ちを変えるとドキドキ！ワクワクになります。教会が抱えるいろいろな問題も新しい風に背中を押され、その歩が少しずつ早まっていくかも！白南風にそんな期待を抱いています。

「誠実な友は、何ものにも代え難く、その素晴らしい値打ちは計り難い」（集会の書6の15）

わたしたちは、これから教会で同じ時間を共有するかけがえのない友達になります。互いにそれぞれが誰かの「誠実な友」になっていきましょう。

（2019年堅信式で梅村司教様と→）

